

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 27 年 7 月 9 日 (2015.7.9)

【公開番号】特開 2014-7477 (P2014-7477A)
 【公開日】平成 26 年 1 月 16 日 (2014.1.16)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-002
 【出願番号】特願 2012-140268 (P2012-140268)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 1/41 (2006.01)

G 0 6 T 5/20 (2006.01)

H 0 4 N 19/00 (2014.01)

【F I】

H 0 4 N 1/41 Z

G 0 6 T 5/20 C

H 0 4 N 7/13 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 5 月 19 日 (2015.5.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

上記濃淡画像復号装置の第 1 態様の構成によれば、低解像度濃淡画像中の画素を L R 画素としたとき、アップサンプリングにより挿入された挿入画素を、(1) 該エッジマップ上の隣り合うエッジ点を連ねた輪郭を跨がず且つ該挿入画素に隣接する L R 画素の加重平均値で補間し、(2) 補間されていない挿入画素が残っていれば該挿入画素を、該該輪郭を跨がず且つ該挿入画素に隣接する補間された画素の加重平均値で補間するので、輪郭の形状に応じてその影響を受けずに挿入画素を補間することができるという効果を奏する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

上記濃淡画像復号装置の第 2 態様の構成によれば、(3) 補間されていない挿入画素のそれぞれについて処理 (2) を行った後に、この処理 (2) で補間された画素とし、補間されていない挿入画素が無くなるまで処理 (3) を繰り返すので、例えば、図 1 2 においてノード 1 と 3 に対応した L R 画素の値の平均でノード 2 に対応した挿入画素を補間した後、この値でノード 6 に対応した挿入画素を補間するということを避けることができ、すなわち、さらにノード 1 と 9 に対応した L R 画素の値の平均でノード 5 に対応した挿入画素を補間した後、ノード 2 とノード 5 の画素の値の平均でノード 6 に対応した挿入画素を補間することができ、これにより画素値の分布がスムーズになってノイズの発生を抑制できるという効果を奏する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 7 】

図 5 はエッジ判定結果が格納された状態を示す。この図中のドットは、エッジ点有り（ビットが ' 1 ' ）を示しており、それぞれ図 4 （ A ）中の太線に対応している。

【手続補正 4 】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】

